

豊庄だより



第 733 号 2022 年 11 月 21 日

福岡市早良区南庄 2-26-13
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長 西尾 達

小学校の 5 年か 6 年の頃だったと思います。ちょうど今頃、学校が休みの日は、山で「生産的遊び」をしていました。ちょっと長くなりますが、「生産的遊び」の説明をします。私が育った家は、周囲は田んぼと畑、そして、背後には山。遊ぶ場所と言えば、公園などはなく、田んぼ、畑、そして山でした。秋の山には、山芋が育っていました。ムラの同級生と道具をもって山芋を掘りに山によく行っていました。お金を払って遊ぶのではなく、自然の中で育ったものを「収穫」して家に持って帰る、私はこの行為を「生産的な遊び」と呼んでいました。

秋になると木々は紅葉します。山芋の蔓(つる)も同じです。木に絡まった濃い黄色になった蔓を見つけ、それが地面のどこから出ているかを探し出し、そこを掘るのです。蔓が太ければ根っこの山芋も大きく、しかし、彫り上げるのは大変でした。また、まっすぐ伸びていることは稀で、折れないように彫り上げるのに苦労しました。

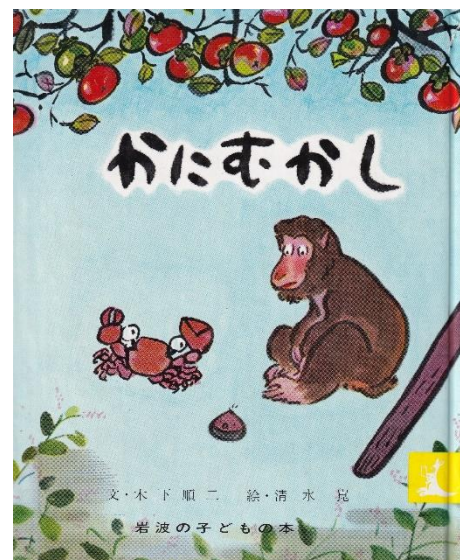


今でも、栽培でなく、自然の中で育った山芋が売っているのを時々目にしますが、高い値がついています。

さて、昔話はこれくらいにして、この山芋の蔓とムカゴの話をして 11 月 7 日の合同朝の会をしました。福岡の街の中でも、山芋の蔓とムカゴを目にする

ことがあります。上の写真は、保育園のすぐ近くで撮影したものです。もうすぐ枯れてしまっていますが、JA 室見支店の東側で見つけました。今年は蔓とムカゴでしたが、来年は山から掘り出した山芋を見せたいと思っています。

秋の話題をもう一つ。柿です。柿を 2 つ準備し、11 月誕生会で話しました。外観はよく似ています。しかし、食べると味は全く異なります。甘い柿と渋い柿です。下の写真、区別がつかますか？答えは、右が渋(しぶ)で、左が甘



合同朝の会で舜先生が話しましたので、お子さんから聞いてください。

事務室の入り口に、もう食べごろだなと判断するまで、剥いた渋柿をつるしていますので、その変化を観察してみてください。



合同朝の会では、柿が登場する絵本『かにむかし』(文・木下順二 絵・清水崑 岩波の子どもの本)の話もしました。「さるかに体操」は、この話をもとにしたものです。保育園の図書室に 2 冊置いています。名作です。